

モスクワの計画の中で：コミンフォルム派 ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの反チ トー・キャンペーンにおける役割（1948年か ら1954年）

木村, 香織 / KIMURA, Kaori

(出版者 / Publisher)

法学志林協会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Review of law and political sciences / 法学志林

(巻 / Volume)

117

(号 / Number)

3・4

(開始ページ / Start Page)

252(95)

(終了ページ / End Page)

213(134)

(発行年 / Year)

2020-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00024248>

モスクワの計画の中で

——コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの反チトー・
キャンペーンにおける役割（1948年から1954年）——

木村香織

1948年の春に始まったモスクワとベオグラードの対立は、同年6月のコミンフォルム第二回大会における同組織からのユーゴスラヴィア追放決定により表面化し、その後他の「人民民主主義」諸国⁽¹⁾をも巻き込んだ反チトー（反ユーゴスラヴィア）・キャンペーンに発展していった。当該国で発行されていた新聞や雑誌は、連日「ユーゴスラヴィアの社会主義へのアプローチ」を強く批判する論を展開していった。

1948年6月のコミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定、その後のモスクワとベオグラードの対立、また、それ以降の国際状況は幾度となく歴史家たちの研究対象となってきた⁽²⁾。しかし、1948年6月のコミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定を受け、コミンフォルム側⁽³⁾に立って行動を起こしたユーゴスラヴィア人の政治勢力についてはあまり

(1) 本稿で指す「人民民主主義」諸国とは、ポーランド・チェコスロヴァキア・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリア・アルバニアである。

(2) *Адибеков Г.М. Ди Бьяджо А. Гибианский Л.Я. и др. Совещания Коминформа, 1947, 1948, 1949. Документы и материалы.* М., 1998; *Аникоев А.С. Как Тито от Сталина ушел: Югославия, СССР и США в начальный период «холодной войны» (1945–1957).* М., 2002; *Едемский А.Б. От конфликта к нормализации. Советско-югославские отношения в 1953–1956 годах.* М., 2008; *Никифоров К. В. (отв. ред.) Югославия в XX веке: Очерки политической истории.* М., 2011; *Аникоев А.С. (отв. ред.) Москва и Восточная Европа. Советско-югославский конфликт и страны советского блока, 1948–1953 гг.* М., 2017.

(3) この時期ベオグラードの政治路線に反対し、コミンフォルム側についていた人たちのことをセルビア語で「Ibeovac」と呼んだ。本稿ではそれらの人々を総称してコミンフォルミストと記す。また、その中でも他国に亡命した人々を「コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者」と記す。本稿では文中に「ユーゴスラヴィア政治亡命者」という表記も出てくるが、それは「コミン

着目されてこなかった。当時ユーゴスラヴィア社会において、コミンフォルムの決定に対する反応は様々であった。チトーの共産主義政権に反対する者たちは、これは政治転換の好機であるにとらえた。また、コミンフォルム・スターリン・全連邦共産党（ボリシェビキ）（ВКП（б））を深く信奉していた者、そこまでとは言わずとも、いわゆる「社会主義の王道」による決定に疑う余地はないと考えていた者も多数存在した。この後ユーゴスラヴィア国内では粛清の嵐が吹き荒れ、反チトー勢力は厳しく弾圧されていくこととなるのである。そんな中、多くの反チトー勢力のユーゴスラヴィア人はソ連をはじめとする「人民民主主義」諸国へ亡命し、政治活動を行っていった。本稿はコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者と呼ばれた人たちの活動に着目し、ソ連・ユーゴスラヴィア外交関係に翻弄された彼らの運命について論じる。⁽⁴⁾

1. 先行研究

コミンフォルム第二回大会のユーゴスラヴィア除名決定を受け、その決定に

フォルム派」ということを強調する必要のない場合、つまり、「コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者」に限定し得ない場合に用いる。

- (4) 本稿は2016年に発表した拙稿、*キムラ・K. 四つの会議 南スラヴ政治移民の歴史と役割*（日本語訳：木村香織「ソ連・「人民民主主義」諸国におけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの4つの会議——1948年から1954年の反チトー・キャンペーンにおける彼らの役割について」）// *Никифоров К.В. (отв. ред.), Силкин А.А. Вместе в столетии конфликтов. Россия и Сербия в XX веке. Сборник статей. М., 2016. С. 324–348* と2017年に発表した拙稿、*Кимура К. Политэмигранты-информбюровцы в Венгрии в 1949–1954 гг.: взаимоотношения с венгерской властью и роль антититовской кампании в Венгрии (ハンガリーにおけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者 (1949年から1954年) ——ハンガリー政府との相互関係とハンガリーにおける反チトー・キャンペーンでの役割について)* // *Хаванова О.В. (отв. ред.) Дронов М.Ю. Леонтьева А.А. Вынужденное соседство - добрососедское приспособление в дипломатических и межнациональных отношениях в Центральной, Восточной и Юго-Восточной Европе XVIII-XXI вв. Сборник статей. М., СПб., 2017. С. 205–222* を基に、さらにその後の研究により発見した新たな史料を加え執筆したものである。

賛同したがユーゴスラヴィアに残り反政府地下活動を展開した人々の運命については、たびたび歴史研究者の興味の対象となってきた。⁽⁵⁾最初にこのテーマを取り上げた研究者として特筆すべき人物は、クロアチア出身のアメリカの歴史研究者、バナツである。彼は著書『スターリンと共に、チトーに反対して——ユーゴスラヴィアの共産主義の中でコミンフォルミストは決別した』⁽⁶⁾の中で、コミンフォルム側について活動したユーゴスラヴィア人たちの存在を広く世に知らしめた。彼はコミンフォルミストたちのユーゴスラヴィアにおける共産主義にとっての存在意義に着目し、彼らの活動に言及している。この著書が書かれたのは1988年であり、当時はまだソ連をはじめとする該当国の公文書館史料は公開されておらず、バナツはアメリカの公文書館史料や先行研究を基にこの著書を書き上げているのだが、後にこの著書に記されている内容はユーゴスラヴィア（セルビア・クロアチア）やソ連の史料でも裏付けられている。この後、1990年代に入ると、セルビア・クロアチア・スロヴェニアなどユーゴスラヴィアを構成していた国々、そしてソ連の公文書館史料が公開され始め、それに伴いコミンフォルミストたちの活動に関する研究も徐々にされるようになっていった。ロシアにおいて初めてコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動について言及した著書の一つに1998年に出版された『コミンフォルム大会。1946年・1948年・1949年。史料と記録』⁽⁷⁾がある。この本の中でギビアンスキーによって書かれた第三部導入部「活動絶頂期のコミンフォルム——組織機構の設立と第三回大会」⁽⁸⁾は、コミンフォルム第三回会議の場にお

(5) I. Banac, *With Stalin against Tito. Cominformist Splits in Yugoslav Communism*, Cornell University Press, Ithaca - London, 1988; B. Kovačević, “O Informbirou u Crnoj Gori”, *1948 - Jugoslavija i Kominform: pedecet godina kasnije*, Beograd - Podgorica, 1998; M. Previšić, “Djelovanje „ibeovaca“ na području Slavonskoga Broda 1948-1955”, *Scrinia Slavonica*, Slavonski Brod, 2010, No. 10; Шахин Ю.В. Деятельность сторонников Коминформа в Югославии// Новая и Новейшая история. 2014. № 5. М., С. 51-62.

(6) I. Banac, *With Stalin against Tito. Cominformist Splits in Yugoslav Communism*, Cornell University Press, Ithaca - London, 1988.

(7) Адибеков Г.М. Ди Бьяджо А. Гибианский Л.Я. и др. Совещания Коминформа, 1947, 1948, 1949. Документы и материалы. М., 1998.

いてコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちがどのようにソ連の反チトー・キャンペーン計画に組み込まれていったかに言及している。⁽⁹⁾ 1990年代に公開されたソ連の史料を基に執筆された本書は、史料集としてコミンフォルム研究において重要な役割を果たしていると共に、当時のギビアンスキーらの考察も非常に貴重なものである。2014年にロシアで発表されたウクライナの研究者シャヒンによる論文では、ユーゴスラヴィア国内におけるコミンフォルミストの活動をユーゴスラヴィア共産党内の対立として論じるだけにとどまらず、コミンフォルミストが生まれた社会的要因も考察している。⁽¹⁰⁾

しかしながら、スターリンとチトーの対立が原因で始まったユーゴスラヴィア国内の厳しい統制から逃れ、ソ連・「人民民主主義」諸国に亡命し活動したコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動が研究者たちの関心の中心に置かれることは長い間なかった。これらのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動に着目し発表された論文としては、2009年にセルビアの研究者ミトロヴィッチとセリニッチが発表したものが挙げられる。ミトロヴィッチとセリニッチはコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動をセルビアの公文書館（ユーゴスラヴィア公文書館：Arhiv Jugoslavije）とスロヴェニア国立公文書館の史料を基に考察した。彼らの研究で特筆すべきことは、スターリンの死後、ユーゴスラヴィアとソ連・「人民民主主義」諸国との外交関係が修復されてからユーゴスラヴィアに戻ったユーゴスラヴィア政治亡命者たちの数を確定したこと、また、ソ連・「人民民主主義」諸国にあったコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの事務局の存在と数を明確に記したことであった。⁽¹¹⁾

(8) *Гибанский Л.Я.* Коминформ в зените активности: создание организационной структуры и третье совещание// *Адибеков Г.М. Ди Бьяджо А. Гибанский Л.Я. и др.* Совещания Коминформа, 1947, 1948, 1949. Документы и материалы. М., 1998. С. 509–542.

(9) *Адибеков Г.М. Ди Бьяджо А. Гибанский Л.Я. и др.* Совещания Коминформа, 1947, 1948, 1949. Документы и материалы. М., 1998. С. 535–536.

(10) *Шахин Ю.В.* Деятельность сторонников Коминформа в Югославии// *Новая и Новейшая история.* 2014. № 5. М., С. 51–62.

コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動に関する研究書が初めて発表されたのは2012年のことであった。チェコの研究者ヴォイチェホフスキは2012年に出版した自らの著書『プラハより反チトー！チェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア亡命者たち⁽¹²⁾』の中で、チェコスロヴァキアに亡命したコミンフォルム派の活動をチェコの公文書館史料を基に論じた。また、クロアチアの研究者プレヴィシッチは2014年に、1948年から1964年までのコミンフォルムの外交問題とコミンフォルム派の活動を未刊行のクロアチア国立公文書館の史料を基に論じ、クロアチアの雑誌に発表した⁽¹³⁾。また、プレヴィシッチの研究では、特に1949年からユーゴスラヴィアにおいて政治犯とみなされた者たちが収容されていたゴリ・オトク強制収容所の役割についての論文が注目されている。

ソ連におけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動について論じたものとしては、2016年にロシアで発表された拙稿「ソ連・「人民民主主義」諸国におけるユーゴスラヴィア政治亡命者たちの4つの会議——1948年から1954年の反チトー・キャンペーンにおける彼らの役割について」が挙げられる。拙稿は、当時のソ連の政治指導者たちがいかにしてコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちを自分たちが計画する反チトー・キャンペーン計画に組み込んでいったのか、そしてそのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア亡命者たちをどのように全連邦共産党ボリシェヴィキに入党させていったのかをロシアの公文書館史料を基に論じている。また、ロシアの研究者アニケエフはそれと同時期にコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちのソ

(11) M. Mitrović, S. Selinić, “Jugoslovenska informbirovska emigracija u istocnoevropskim zemljama, 1948–1964”, *Tokovi istorije*, Beograd, 2009, No. 1–2, p. 31–54.

(12) O. Vojtěchovský, *Z Prahy proti Titovi! Jugoslávská informbyrovská emigrace v Československu*, Praha, 2012（チェコ語）本書はクロアチア語にも翻訳されている。O. Vojtěchovský, *Iz Praga protiv Tita! Jugoslavenska informbiroovska emigracija u Čehoslovačkoj*, Zagreb, 2016.

(13) M. Previšić, “Informbiroovska emigracija”, *Historijski zbornik*, Zagreb, 2014, No. 1 (vol. 65), p. 171–186.

連における活動に着目し、同年2016年に「チトー打倒を図るソ連の計画の中のユーゴスラヴィア政治亡命者たち⁽¹⁴⁾」を発表している。2019年5月に発行されたロシアの歴史雑誌『ローヂナ（祖国）』に、新たに公開されたロシア国立社会政治史公文書館の史料が掲載された⁽¹⁵⁾。この新たに公開された史料の興味深い点は、ソ連に亡命した若いユーゴスラヴィア政治亡命者たちの中には1948年の時点でコムソモール入団許可を得た者もいたということが記されていることである。これらの文書が公開されたことでソ連のユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動についてさらに研究が進むことが期待される。

「人民民主主義」国家の一つであったハンガリーにおけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動についての論文としては2017年に発表された拙稿「ハンガリーにおけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者（1949年から1954年）——ハンガリー政府との相互関係とハンガリーにおける反チトー・キャンペーンでの役割について⁽¹⁸⁾」が挙げられる。その中で著者はロシア国立社会政治史公文書館とハンガリー国立公文書館の史料を基にハ

(14) *Аникеев А.С.* Югославская политэмиграция в советских планах свержения Й.Б. Тито// Славяноведение. 2016. № 5. М., С. 31-42.

(15) *Сорокин А. Лукашин А.* Обеспечить югославам постоянной жилплощадь в домах Моссовета// Родина. 2019. № 5. М., С. 102-107.

(16) 全連邦レーニン共産主義青年同盟（Всесоюзный ленинский коммунистический союз молодежи）の略称。マルクス・レーニン主義政党的青年組織。

(17) コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の中でも青年、学生の活動を扱った論文に、拙稿「ソ連・「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア政治亡命者（1948年から1954年）——学生たちの活動。第二回世界青年学生祭典」がある。K. Kimura, “Yugoslav political émigrés-students in the USSR and the countries of People’s Democracy during the period of Stalin-Tito split (1948-1954) - their situation in the first years of their emigration. In case of II World Festival of Youth and Students”, *Środowisko studenckie w krajach bloku sowieckiego 1945-1990*, Wrocław, 2020 (in press).

(18) *Кимура К.* Политэмигранты-информбюровцы в Венгрии в 1949-1954 гг.: взаимоотношения с венгерской властью и роль антититовской кампании в Венгрии// *Хаванова О.В. (отв. ред.) Дронов М.Ю. Леонтьева А.А.* Вынужденное соседство - добрососедское приспособление в дипломатических и межнациональных отношениях в Центральной, Восточной и Юго-Восточной Европе XVIII-XXI вв. Сборник статей. М., СПб., 2017. С. 205-222.

ンガリーにおけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動、反チトー・キャンペーンの展開について、ブダペストとモスクワとの関係に焦点を置き考察し論じた。同年、ハンガリーの研究者ヴクマンがハンガリーにおけるユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動をハンガリー内政の視点から考察し論じた著書を出している。⁽¹⁹⁾ヴクマンの研究の特筆すべき点としては、彼はフルシチョフが正式に反チトー・キャンペーンの中止を「人民民主主義」諸国の指導者たちに指示した1954年9月以降、1980年までの彼らの活動についても言及しているところである。

その他の「人民民主主義」諸国、つまりブルガリア・ルーマニア・ポーランド・アルバニアにおけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動について、モスクワとの関係に焦点を当てた研究書や論文は現時点では発表されておらず、これらの国家におけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動について研究が進むことが期待される。

2. コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の誕生

上記で述べたように、1948年6月のコミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定は「人民民主主義」諸国を大きく揺るがせた。ユーゴスラヴィアを除く「人民民主主義」諸国の指導者たちはこの決定を受け入れた。この状況を受け、特に当時国外にいたユーゴスラヴィア人たち、例えば、各国のユーゴスラヴィア大使館勤務であった外交官や出張でユーゴスラヴィア国外にいた者、学業のため他国（主にソ連・「人民民主主義」諸国）に留学していた者の多くはチトー政権の正統性を信じず、コミンフォルムの決定を受け入れる道を選んだ。例えば、当時ルーマニア・ユーゴスラヴィア大使であったガルボヴィッチは、⁽²⁰⁾コミンフォルム第二回大会の決定が新聞で発表された1948

(19) P. Vukman, *Harcban Tito és Rankovics klikkje ellen. Jugoszláv politikai emigránsok Magyarországon (1948-1980)*, Kronosz Kiadó, Bp. - Pécs, 2017.

(20) ラドニャ・ガルボヴィッチ (Radonya Golubovic) : 1907年生まれ (ソ連亡命時のアンケー

(21) 年6月29日の翌日に辞職し、同年8月2日にプラウダ紙に自身の声明を発表している。また、ユーゴスラヴィア人外交官がコミンフォルムの決定を受け入れ、新聞に声明を出した例は「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア大使館勤務者だけに留まらず、在資本主義国家のユーゴスラヴィア大使館員にも多く見受けられた。⁽²²⁾

1948年12月の統計によると、ソ連国内では約500人のユーゴスラヴィア人が軍の学校で学んでいた。また、約50人のユーゴスラヴィア人がソ連の高等教育機関で学んでいた。⁽²³⁾ その中の多くはコミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定発表後に祖国に帰ることを拒んだということである。また学生の中には、6月に夏の休暇でユーゴスラヴィアに列車で帰省する途中のハンガリー国内でコミンフォルムのユーゴスラヴィア追放の決定を知ったという者もいた。彼はそのまま故郷に帰省したが、日を追うごとにチトー政府の統制が厳しくなる中、ソ連に留学していたため当局に疑いの目を向けられた。

ト用紙に自己申告した生まれ年)。1931年よりユーゴスラヴィア共産党員。1945年から1947年までモンテネグロ内務大臣、法務大臣、モンテネグロ政府計画委員会委員長などを歴任する。1947年に在ルーマニア・ユーゴスラヴィア大使に任命された。コミンフォルム第二回大会の決定後、大使を辞任し、1949年ソ連に亡命した。1949年よりコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の新聞『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』の編集長となる。亡命時には妻と3人の子と共にソ連に入る (Российский государственный архив социал-политической истории (РГАСПИ). Ф. 495. Оп. 277. Д. 119. Л. 1-1об.)。

(21) コミンフォルムの決議は、1948年6月29日『プラウダ』紙に掲載された。Резолюция Информационного бюро «О положении в Коммунистической партии Югославии»// Правда. 1948. 29 июня

(22) 例えば、在ミラノ・ユーゴスラヴィア領事館の職員たちの大多数は、このコミンフォルム第二回大会の決議を受け、辞職願を出した (Архив внешней политики Российской Федерации (АВП РФ). Ф. 77. Оп. 25. П. 25. Д. 61. Л. 6)。また、1948年11月、在南アフリカ連邦・ユーゴスラヴィア公使が、ソ連に対する自国の政府の対応に反対の意思を表明し、辞職した (Там же. П. 23. Д. 20. Л. 125)。在テヘラン・ユーゴスラヴィア公使館の職員たちは、チトー政府に対する反対意見を表明し、ユーゴスラヴィアへの帰国を拒んだ (Там же. П. 25. Д. 61. Л. 183)。また、「人民民主主義」諸国の新聞や雑誌はこの時期、反チトー的立場を表明したユーゴスラヴィア人に関する記事を積極的に掲載した。

(23) РГАСПИ. Ф. 17. Оп. 128. Д. 1150. Л. 85, 88, 91.

次第にルブリャナに居られない状況になっていった彼は、国境を越えハンガリーに亡命したとの記録も残っている。この学生は後にハンガリーでユーゴスラヴィアに向けたラジオ放送編集部のスロヴェニア語部門で働き、反チトー・キャンペーンに携わることになる。⁽²⁴⁾

ユーゴスラヴィア空軍の少将であったポピヴォダ⁽²⁵⁾は軍の飛行機を自ら操縦して国境を越えルーマニアに入った。⁽²⁶⁾彼はその後ソ連に亡命し、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの中央組織において中心的役割を果たすことになる。ソ連では1948年末までに計28人のユーゴスラヴィア人たちが亡命し、政治亡命者として受け入れられた。⁽²⁷⁾

3. ソ連当局の反チトー・キャンペーン計画

全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会では、コミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定直後にはすでにコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちを反チトー・キャンペーンに組み込もうという計画があった。その計画には、当時はまだ政治亡命者として承認されていたわけではないが、新聞にチトー政府を批判する声明を発表したユーゴスラヴィアの外交官たちも含まれていた。ユーゴスラヴィア政治亡命者たちを統括する役目を果

(24) РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 423. Л. 25-27.

(25) ペロー・ポピヴォダ (Pero Popivoda) : 1916年生まれ (ソ連亡命時のアンケート用紙に自己申告した生まれ年)。1940年よりユーゴスラヴィア共産党員 (それ以前、1937年からユーゴスラヴィア共産主義青年同盟のメンバーであった)。1945年、モスクワのフルンゼ軍事アカデミーに入り、1947年に同校を卒業するとユーゴスラヴィアに戻った。そして、少将の位を与えられ、ユーゴスラヴィア空軍の司令官代理に任命される。1948年8月14日、飛行機でルーマニアとの国境を越え、同年8月26日、ルーマニアの新聞にチトーとランコヴィッチの政治を批判した彼の投稿が掲載された。同年9月ソ連に渡り、反チトー・キャンペーンに従事する。1949年より『社会主義的ユーゴスラヴィアのために (Za socijalisticku Jugoslaviju)』紙の編集部で働く (РГАСПИ. Ф. 495. Оп. 277. Д. 120 (I). Л. 10-12 また、РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 69. Л. 24)。

(26) РГАСПИ. Ф. 495. Оп. 277. Д. 120 (I). Л. 10-12.

(27) РГАСПИ. Ф. 17. Оп. 128. Д. 1150. Л. 85, 88, 91.

たした部署は、全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会対外（関係）部であった。1948年10月から12月の計画書には、「ユーゴスラヴィア共産党内の状況に関連し、亡命しているユーゴスラヴィア人共産主義者の間の活動を組織すること」及び「亡命しているユーゴスラヴィア人共産主義者たちがコミンフォルムの決定事項を実行するために（彼らに割り振られた）仕事に対する援助をすること」が明記されていた⁽²⁸⁾。つまり、ソ連・「人民民主主義」諸国におけるユーゴスラヴィア人共産主義者たちの反チトー・キャンペーンは1948年の時点ですでにソ連において計画されていたことであり、初めから中央の政策に沿ったものであったと言えるのである。

上記で、1948年末の時点でソ連に28人のユーゴスラヴィア人が政治亡命者として受け入れられていたと述べたが、彼らは、全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会にコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の中央組織を作ること、そして、ユーゴスラヴィアと国境を接しているハンガリー・ルーマニア・ブルガリア・アルバニアにプロバガンダのピラの受け渡しや情報収集、地下活動のための人員をユーゴスラヴィアへ送り込む仕事を請け負う実行部のような組織を作することを提案している。またそれに伴い、ソ連におけるコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの会議を開くことが提案された⁽²⁹⁾。これを受けて、全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会局長代理であったポノマリョフ（Пономарев Б.Н.）は、1948年12月3日から16日の間に全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会政治局員であったマレンコフ（Маленков Г.М.）に数回、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の活動への援助に対する同意を記した文書を送っている⁽³⁰⁾。

「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動を調整するための中央組織設立に関しては、1948年12月3日付の全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会外交部の記録によると、そのような組織

(28) Там же. Л. 37-38.

(29) Там же. Л. 85, 88, 91.

(30) Там же. Л. 85-87, 88-90, 91-94, 95-96, 99, 102-103.

をルーマニアに作ることが提案されている。しかし、設立地に関してはルーマニアに代わりチェコスロヴァキアのプラハが提案された。その理由としては、後に詳しく述べるが、プラハにはこの時点でコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の組織的なグループが出来上がっており、彼らは『新たな闘い』(Nova Borba)』という新聞をセルビア語で発行していたからである。しかし、最終的に中央組織設立地はモスクワに落ち着くことになるのであるが、このことについては、1948年12月の時点でポノマリョフがマレンコフに提案している。それと同時に、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの会議を全連邦共産党ポリシェビキ中央委員会外交部のイニシアチブの元にモスクワで開催することも提案した。⁽³³⁾

この「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動を調整するための中央組織の指導者の候補としては、政治経験のある共産主義者であったガルボヴィッチとポピヴォダ、そして『新たな闘い』紙の編集者であったイヴァノヴィッチが推薦された。この中央組織は、『新たな戦い』紙の発行、ビラやその他のプロパガンダ材料の供給、「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア政治亡命者たちのグループとの連絡、そして、ユーゴスラヴィア国内に残ったコミンフォルミストのグループとの通信の仕事を請け負うこととされた。⁽³⁵⁾ また、1948年12月8日付の全連邦共産党（ポリシェビ

(31) 当時の史料を見ると、「セルビア語」と書かれている文書が圧倒的多数を占めており、「セルボ・クロアート語」と書かれている文書はごく少数である。本稿では、分析した史料の大多数の個所に使用されれるとおり「セルビア語」と記すが、これは「セルボ・クロアート語」と同義語であるとする。

(32) Там же. Л. 86, 89.

(33) Там же. Л. 102.

(34) スロボダン・イヴァノヴィッチ (Slobodan Ivanović) : 1915年生まれ。1942年よりユーゴスラヴィア共産党員。1944年、雑誌『声 (Glas)』と『10月20日 (20 octobar)』の編集長となる。1947年より在ワシントン・ユーゴスラヴィア大使館の広報担当書記官。1948年7月にチトーの政治を批判し辞職するとチェコスロヴァキアに亡命し、新聞『新たな闘い』の編集長を務めた (РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 117. Л. 46)。

(35) РГАСПИ. Ф. 17. Оп. 128. Д. 1150. Л. 86, 89.

キ) 中央委員会対外(関係)部の記録によると、この中央組織の仕事は、コミンフォルムの事務局とも繋がっていなければならないとされた。コミンフォルムの事務局は、この時点ではプラハに設立が予定されていた「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動を調整するための中央組織設立に協力すると同時に、全連邦共産党(ボリシェビキ)中央委員会に「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者に関する情報を上げる機関として機能していた。⁽³⁶⁾

コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者のことを担当する機関として、全連邦共産党(ボリシェビキ)中央委員会対外(関係)部の中に特別委員会を設立することが提案された。⁽³⁷⁾ この委員会は全連邦共産党(ボリシェビキ)中央委員会対外(関係)部・ソ連国家保安省・政治部・ソ連軍事省外務部から選ばれた代表者から形成されることが決まり、その結果、ポポフ・ポノマリョフ・フルリョフ・ホロドコフがそのメンバーとなった。⁽³⁸⁾
⁽³⁹⁾ ⁽⁴⁰⁾ ⁽⁴¹⁾

4. ポピヴォダの「人民民主主義」諸国への出張

1949年1月、ソ連にいたコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者ピヴォダは、チェコスロヴァキアとルーマニアのユーゴスラヴィア政治亡命者グループの状況を把握するため、2週間の出張が許可された。⁽⁴²⁾

ピヴォダがこの2国に派遣された要因としては、チェコスロヴァキアには

(36) Там же. Л. 89.

(37) 1948年12月8日付の記録では、ポノマリョフがマレンコフにこのことを打診している。

(38) ポポフ・ゲオルギー・ミハイロヴィッチ (Попов Г.М.): 1906年生まれ。ソ連の政治家。1945年から1949年には党モスクワ州委員会第一書記であった。

(39) フルリョフ・アンドレイ・ヴァシーリエヴィッチ (Хрулев А.В.): 1892年生まれ。ソ連の政治家であり軍人。1946年から1950年にはソ連軍務大臣代理であった。

(40) ホロドコフ・ヴァシーリー・アンドレイヴィッチ (Холодков В.А.): 1896年生まれ。精神科医であった。ソ連赤十字・赤新月運動執行部の代表であった。

(41) Там же. Л. 92, 95, 99.

(42) Там же. Л. 86, 89.

すでにコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者のグループがあったこと、そしてルーマニアには古参の共産主義者であったガルボヴィッチがいたことが挙げられる。この時すでにポピヴォダの頭には「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動を調整するための中央組織設立に向けた計画が進んでいたのである。ポピヴォダの出張の行程は、最初にブカレストでガルボヴィッチとすべての計画について話し合い、その後2人でプラハに赴き、チェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループが発行していた『新たな闘い』紙の編集部及び他のメンバーと会談するということであった。⁽⁴³⁾

上記で少し触れたが、チェコスロヴァキアにはコミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定直後の1948年8月の時点ですでにコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者のグループが組織されていた。そのグループの中心的立場にあったのは、ミリュエニッチ・イヴァノヴィッチ・ライコヴィッチ・ドラギラら数名のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者であった。⁽⁴⁵⁾ ⁽⁴⁶⁾ 彼らは早くも同年9月から『新たな闘い』紙を発行した。チェコスロ

(43) Там же. Л. 412-414.

(44) ヨシップ・ミリュエニッチ (Josip Milunić) : 1912年生まれ。1935年よりユーゴスラヴィア共産党員。第二次大戦後、保健省で働いた。1947年1年の任期でアメリカの大学に出張した。1948年6月のコミンフォルムの決議後ユーゴスラヴィアに帰国することを拒み、同年秋にチェコスロヴァキアに亡命した。コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の活動を指揮する立場にあり、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者ジャーナリストクラブの主幹であった (РГАСПИ. Ф. 575. Он. 1. Д. 117. Л. 48)。

(45) ミリュエチン・ライコヴィッチ (Milutin Rajković) : 1912年生まれ。1942年よりユーゴスラヴィア共産党員。ユーゴスラヴィアが解放されるとヴォイヴォジナの党の宣伝広報部で働いた。雑誌『自由ヴォイヴォジナ (Slobodna Vojvodina)』の編集。1948年、ベオグラードで発行されていた雑誌『政治 (Politika)』の編集長代理になる。コミンフォルムの決議が出ると、チトーの政治を批判し、チェコスロヴァキアに亡命する。プラハではラジオ局で働いた (Там же. Л. 47)。

(46) ペロー・ドラギラ (Pero Doragila) : 1907年生まれ。在ワシントン・ユーゴスラヴィア大使館の書記官として働いていた。1948年にチェコスロヴァキアに亡命すると、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者のグループの中心的役割を担った。

ヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちがすぐに亡命者組織を形成できた背景には、他の「人民民主主義」諸国に亡命していたユーゴスラヴィア人たちと比較すると、高い教育を受けていた人々が多かったという事実がある。元々プラハは学者やジャーナリストなどのユーゴスラヴィア知識人たちが集っていた場所であったのだが、その影響でコミンフォルム第二回大会のユーゴスラヴィア追放決定が発表された2カ月後には、早くも組織的に新聞を発行することができたのである。

ポピヴォダとガルボヴィッチはプラハにおいてチェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちと話し合いの場を設けた。1949年1月28日から31日にかけての会談において、1949年3月にソ連および「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの代表を集めた会議を開くという決定がなされた。⁽⁴⁷⁾ポピヴォダはソ連に戻った後この出張についての報告書をあげているが、チェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動、『新たな闘い』紙の編集部について批判的な評価を下している。⁽⁴⁸⁾そのため、『新たな闘い』紙はソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動を調整するための中央組織の機関紙としての地位は得られず、新たにモスクワで新聞が発行されることとなった。

5. 1949年のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの新聞の発行

ロシア国立社会歴史公文書館（РГАСПИ）の史料によると、モスクワにおいてコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの新聞をセルビア語で発行するという案は、1949年2月26日付の全連邦共産党（ポリシェビキ）中央

(47) РГАСПИ. Ф. 17. Оп. 128. Д. 114. Л. 244-247.

(48) Там же. Л. 1-2.

委員会対外（関係）部員メドヴェーヂェフ（Медведев И.）が同部局長代理ボノマリョフに宛てた計画書に最初に記録されている。⁽⁴⁹⁾この計画書には事細かな事務的計画、例えば、記事のタイプを担当するのはタイプライターでセルビア語の文字が打てる印刷所「革命の火花（Искра Революции）」であること、印刷を担当するのは、新聞『イズヴェスチヤ（Известия）』の印刷所であることなどが書かれている。また、新聞の正式な発行機関としては、ソ連スラヴ委員会⁽⁵⁰⁾もしくは、外国との文化交流のための全ソ連協会が候補に挙がっていた。⁽⁵¹⁾また、新聞の編集部の仕事へのコントロールを強化するために、雑誌『スラヴ人（Славяне）』とソ連スラヴ委員会印刷部の職員およびソ連に住む2、3名のユーゴスラヴィア人共産主義者を新聞の編集部に入れるという提案がなされた。⁽⁵²⁾

ここで指摘しておきたいこととしては、上記の計画書に編集部のメンバーとしてユーゴスラヴィア政治亡命者の名前は一人として挙がっていない点である。これは、当時のソ連指導部がユーゴスラヴィア政治亡命者たちに対し少なくとも党のプロパガンダを任せるといふ点では全面的な信頼を置いていなかったことの表れであると言える。さらに、全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会対外（関係）部の提案では、新聞の編集部には、ユーゴスラヴィアでも名が知られているソ連の作家・学者・文化人を数名入れ、更に2、3名のセルビア語に長けた同志（ソ連人）を入れることが記されており、編集長にはチーホノフ（Тихонов Н.С.）、そして、編集長代理にはセルビア語に長けた人物3名ほどが候補に挙げられていた。⁽⁵³⁾このように1949年2月末の段階では、新聞の編集部ユーゴスラヴィア政治亡命者を使うという具体案は出されなかったのである。

しかし、1949年3月26日にスターリンに宛てた文書と共に送られた全連邦

(49) Там же. Д. 1183. Л. 11-12.

(50) Славянский Комитет СССР: 1941年、ナチズム・ファシズムとの闘いのために、全てのスラヴ民族を集結させる目的で設立された非政府組織。

(51) Всесоюзное общество культурных связей с границей (ВОКС): 1925年、主に外国との科学、文化交流を発展させるために設立されたソ連の非政府組織。

(52) Там же.

(53) Там же.

共産党（ボリシェビキ）中央委員会の計画書には、新聞の編集部に入れるメンバーとして全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会対外（関係）部からの人物以外に、共産主義者でありユーゴスラヴィア政治亡命者である人物の名が連ねられている。編集長にはガルボヴィッチ、その他にはポピヴォダ・ルーキン⁽⁵⁴⁾・アリホジッチ・エシッチ⁽⁵⁵⁾が編集部員として候補に挙げられた。これは党がユーゴスラヴィアの現状を知るユーゴスラヴィア政治亡命者たちを欠いては新聞の編集部が成り立たないと考えるようになったからであると思われる。その他に、全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会対外（関係）部からセルビア語に長けた全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会対外（関係）部事務局長代理レサコフ（Лесаков В.И.）とソ連外務省バルカン局文書作成係サハロフ⁽⁵⁸⁾（Сахаров В.М.）の名も編集部の中に入っている。

(54) パヴレ・ルーキン（Pavle Lukin）：1907年生まれ（ソ連亡命時のアンケート用紙に自己申告した生まれ年）。1944年よりユーゴスラヴィア共産党員。1931年ベオグラード大学の法学部を卒業する。第二次大戦後、ユーゴスラヴィア外務省で働く。1947年、カナダにユーゴスラヴィア公使として送られる。1948年ソ連に亡命し、1949年4月から『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部で働く（РГАСПИ. Ф. 495. Оп. 277. Д. 121. Л. 1, 6, 65 また、РГАСПИ. Ф. 17. Оп. 128. Д. 493. Л. 152）。

(55) アシム・アリホジッチ（Asim. Alihodžić）：在テヘラン・ユーゴスラヴィア大使であった。1948年8月に大使館の外交官たちと共にコミンフォルムの決定に賛同する旨を発表し（РГАСПИ. Ф. 17. Оп. 128. Д. 493. Л. 73-75）、ソ連に亡命した。

(56) モムチロ・エシッチ（Momcilo Eshić）：1921年生まれ（ソ連亡命時のアンケート用紙に自己申告した生まれ年）。1941年よりユーゴスラヴィア共産党員。1941年、ヴァリエヴォ（Valjevo：現セルビア）のギムナジウム卒業後、ウジツェ（Užice：現セルビア）のバルチザン部隊に入る。その後チェトニックに捕まり、ナチスに引き渡された。ユーゴスラヴィア・ドイツ・ノルウェーの強制収容所を転々とさせられ、1944年にスウェーデンに逃げた。そこでは、当時スウェーデンに亡命したユーゴスラヴィア政治亡命者グループの指導的メンバーの一員であったようである（ソ連亡命時にこのことを申告している）。第二次大戦後はオスロのユーゴスラヴィア公使館で働いた。1948年、ソ連に亡命するとそれと同時に1948年12月よりソ連共産党中央委員会付属高等学院で学び、1949年4月から『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部で編集部事務主任として、1951年からは編集長代理として働いた（РГАСПИ. Ф. 495. Оп. 277. Д. 122. Л. 22-23）。

(57) РГАСПИ. Ф. 82. Оп. 2. Д. 1379. Л. 2.

(58) Там же.

このモスクワで発行される予定であったセルビア語の新聞の名称としては最初、『インターナショナルの旗の下に（Pod zastavom internacionalizma）』が候補に挙がった。その後コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの間で『人民ユーゴスラヴィア（Narodna Jugoslavija）』という名称が候補に挙がり、最終的には『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』という名称に落ち着いた。⁽⁵⁹⁾以下で詳しく述べるが、1949年5月15日より、コミンフォルムの本部があるルーマニアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちが『インターナショナルの旗の下に』という名称でセルビア語の新聞を刊行した。また、ブルガリアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは『前進（Napred）』という名称の新聞をマケドニア語で刊行している。少し時期は遅れるが、アルバニアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは『自由のために（Za slobodu）』という新聞をセルビア語で、ハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは『人民の勝利のために（Za ljudsko zmago）』という名称の新聞をスロヴェニア語で刊行している。

全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会の決定により、1949年4月の初めに50人から60人のユーゴスラヴィア政治亡命者たちを集めた秘密会議がモスクワで開かれた。この会議において、正式に『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の発行が決定され、その編集部のメンバーにはガルボヴィッチ、ポピヴォダ、ルーキン、エシッチ、アリホジッチ、ヴィドミル（V. Vidmir, サヴィッチ（Milorad Savić）が入ることとなった。⁽⁶⁰⁾そして1949年5月1日、『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の創刊号が発行されたのである。⁽⁶¹⁾

(59) Там же.

(60) Волокитина Т.В. (Отв. ред.). Советский фактор в Восточной Европе. 1944–1953 гг. Документы. Т.2. 1949–1953 гг. М., 2002. С. 87.

(61) このコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの新聞が刊行されたことは、1949年5月1日、ソ連共産党の機関紙『ブラウダ』で紹介された（Волокитина Т.В. (Отв. ред.). Советский фактор в Восточной Европе. 1944–1953 гг. Документы. Т.2. 1949–1953 гг. М., 2002. С. 88）。

6. 『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部

『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部は発足当初から新聞の編集部以上の役割を担っていた。実質的にはソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの指導部的役割を果たすことになるのである。『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部は、現地のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの状況把握や情報交換、援助をするためにしばしば「人民民主主義」諸国に赴いていた。⁽⁶²⁾

1949年4月から5月にかけて、ポピヴォダはサヴィッチを伴いブルガリア・ルーマニア・ハンガリーの視察に出かけた。その出張後、彼らは「ユーゴスラヴィア共産党臨時亡命指導部」をコミンフォルムの下に作るよう全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会に求めるようになる。この「ユーゴスラヴィア共産党臨時亡命指導部」の役割は、コミンフォルムにおいてユーゴスラヴィア共産党の代表とすること、「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの活動を統括すること、ユーゴスラヴィア国内のコミンフォルミストたちと連絡を取り合うこと、ユーゴスラヴィア国内にコミンフォルミスト地下中央組織を作ること、そして、チトー政府が倒れた時に備えて、新たなユーゴスラヴィア共産党指導部の条件を整えることが挙げられた。また、コミンフォルムが主宰するユーゴスラヴィアに向けた新聞とラジオ放送も「ユーゴスラヴィア共産党臨時亡命指導部」が担当することとされた。⁽⁶³⁾

このように1949年春の段階で、ソ連・「人民民主主義」諸国に存在する個々

(62) 例えば、1949年4月から5月には、ポピヴォダとサヴィッチがブルガリア・ルーマニア・ハンガリーに出張している（РГАСПИ. Ф. 575. Он. 1. Д. 115. Л. 11-13）。また同年11月には、『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部が全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会にポピヴォダのポーランド・チェコスロヴァキア・ハンガリーへの出張願いを出している。出張願いと同時に、この文書にはルーマニアとブルガリアで発行されているコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の新聞の質を向上させるために援助をする旨が記されている（РГАСПИ. Ф. 17. Он. 137. Д. 84. Л. 231）。

(63) РГАСПИ. Ф. 575. Он. 1. Д. 115. Л. 11-13.

のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループとしての強化だけではなく、コミンフォルム内の一つの機関としてのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者組織の中央化計画が進められていった。そしてその前身となる中央組織として『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部があったのである。

7. ユーゴスラヴィア政治亡命者中央組織の強化

新聞『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』の編集部がソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者組織の中心的位置づけにあったことは上記で触れたが、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の間では日を追うごとに中央機関としての正式な機関を作る案が出るようになっていった。⁽⁶⁴⁾この案が初めて議論されたのは、1949年の夏、ハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの間でのことであつた。⁽⁶⁵⁾1949年8月5日、ハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの代表者であつたヴェレミル⁽⁶⁶⁾とトレボヴィッチ⁽⁶⁷⁾がこの件について進言したことが初めての記録である。⁽⁶⁸⁾

(64) 全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会には、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の正式な中央機関の細かな構成についての案が提出されるようになっていった（Волокитина Т.В. (Отв. ред.) Советский фактор в Восточной Европе. 1944–1953 гг. Документы. Т.2. 1949–1953 гг. М., 2002. С. 154–160）。

(65) 1949年6月8日、ブダペストにおいて開かれたハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの会議の場で、ハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者のグループの指導者たちが決定した。その場において、ソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループを統括する正式な中央機関設立の必要性が議論された（РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 115. Л. 4–6）。

(66) ミルーテン・ヴェレミル（Milutin Velemir）：1904年生まれ。ユーゴスラヴィア解放戦争に参加し、戦後はサラエヴォの党学校の校長をしていた（Там же. Л. 39–40）。

(67) ゴイコ・トレボヴィッチ（Gojko Trebović）：1917年生まれ。軍人。1940年よりユーゴスラヴィア共産党員。コミンフォルム第二回大会の決議後に逮捕され、3カ月後に釈放されるとハンガリーに亡命した。

ヴェレミルとトレボヴィッチは、文書の中で「人民民主主義」諸国に居住しているコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者にとって、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の正式な中央機関がないことが反チトー・キャンペーン遂行の妨げになっていることを指摘し、中央機関設立を訴えた。また、その中央機関の設置場所をルーマニアのブカレストとし、その機関のメンバーは固定ではなく変更ができ、彼らの出自やユーゴスラヴィア国内における社会的地位は問われず、有能な共産主義者なら誰でもメンバーになることができるとい条件が提案された⁽⁶⁹⁾。

しかし、ブカレストにユーゴスラヴィア政治亡命者の中央機関が置かれるという案が採用されることはなく、1950年6月付の文書にはユーゴスラヴィア政治亡命者の中央機関をモスクワに設置するという計画が明記されている。そしてそのメンバーには、ポピヴォダ・ガルボヴィッチ・ペトウラノヴィッチ・オポエヴリッチ・ミシッチが推薦された。これらの人物は当時のソ連・ルーマ

(68) この時、ソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループを統括する正式な中央機関の名称の案として、「新ユーゴスラヴィア共産党臨時党指導部」が提案された (Там же. Д. 116. Л. 177)。

(69) Там же. Л. 176-178.

(70) ヨシップ・ペトラノヴィッチ (Josip Petranović) : 1924年生まれ。1943年よりユーゴスラヴィア共産党員。1945年から1946年までユーゴスラヴィア外務省の人事課の文書係として働いた。1946年から1948年までベオグラード大学法学部で学んだ。1948年、在カイロ・ユーゴスラヴィア領事館で働いた。コミンフォルムの決議を受け辞職願を出し、ソ連に亡命した。ソビエト連邦閣僚会議付けユーゴスラヴィアラジオ放送委員会の編集として働いている (РГАСПИ. Ф. 82. Оп. 2. Д. 1379. Л. 49)。

(71) アレクサンダール・オポエヴリッチ (Aleksandar Opoevlić) : 1924年生まれ。1943年よりユーゴスラヴィア共産党員。軍人。第二次大戦中はヴォイヴォジナのユーゴスラヴィア解放軍に従事した。1946年から1947年までソ連・ソネチノゴールスク (Солнечногорск) で軍事を学ぶ。1947年ユーゴスラヴィアに戻り、ノヴィ・サド市の旅団参謀長、ゼムン市航空守備部隊参謀長などに任命される。1948年、コミンフォルムの決議に賛同し、ルーマニアに亡命した。コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループで働いている (Там же. Л. 50)。

(72) ペートル・ミシッチ (Petr Misić) : 1914年生まれ。1939年よりユーゴスラヴィア共産党員。1946年から1948年までセルビアのザイエチャルの裁判所の裁判官・地方検察官補佐・ザイエチャル地方の調停裁判所代表者として働いた。1948年コミンフォルムの決議に賛同し、1949年にブルガリアに亡命した。1950年3月よりブルガリアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治

ニア・ブルガリアのユーゴスラヴィア政治亡命者の代表者たちであり、彼らはコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の中でも「経験のある共産主義者」と評価されていたため、中央機関のメンバー候補に挙げられたのだと推測される。

8. 「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア政治亡命者の数とその構成

ここでソ連・「人民民主主義」諸国に亡命したユーゴスラヴィア政治亡命者の数を、1950年及び1953年に取られた統計データを基に見ていきたい（この数字は各国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループと繋がりがあつた亡命者の数であり、実際各国のグループは地方に住んでいるユーゴスラヴィア政治亡命者の数を正確には把握しきれていなかったようである）。

これを見ると、ユーゴスラヴィアと国境を接している国の中で、ハンガリー

国名	ユーゴスラヴィア政治亡命者の総数 (1950年)	ユーゴスラヴィア政治亡命者の総数 (1953年)
⁽⁷⁴⁾ ルーマニア	147名 ユーゴスラヴィア共産党員 122名 無党 25名	114名
⁽⁷⁵⁾ ブルガリア	834名（ブルガリアとの国境を越えて入ってきた総数） ユーゴスラヴィア共産党員 216名 ユーゴスラヴィア共産主義青年同盟 120名 その他の共産主義組織 166名 無党 332名	277名

亡命者の新聞『前進』の編集長代理を務めた（Там же. Л. 51）。

(73) Там же. Л. 40-42.

(74) 1950年1月の記録（РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 162. Л. 2-21）1953年1月の記録（Там же. Д. 301. Л. 1-31）。

(75) 1950年2月の記録（Там же. Д. 135. Л. 77-104）1953年1月の記録（Там же. Д. 278. Л. 88-97）。

ハンガリー ⁽⁷⁶⁾	73名 ユーゴスラヴィア共産党員 46名 党員候補 4名 コムソモール 8名 無党 15名	75名
チェコスロヴァキア ⁽⁷⁷⁾	148名 ユーゴスラヴィア共産党員 63名 党員候補 8名	139名
アルバニア ⁽⁷⁸⁾	255名 ユーゴスラヴィア共産党員 131名 軍人 29名 その他 78名	—
ポーランド ⁽⁷⁹⁾	23名	—

のユーゴスラヴィア政治亡命者の数が圧倒的に少ないのが目につく。これは、ハンガリーにおける政治亡命者の審査が他の国と比べて厳しかったことが理由だと思われる。実際、ハンガリーにおける亡命者への審査について、ポピヴォダはバラノフに送った1949年5月のハンガリーへの出張報告書の中で言及⁽⁸⁰⁾している。その後、1948年から1949年の間にユーゴスラヴィア政治亡命者たち⁽⁸¹⁾に対して行われていた様な厳しい審査は無くなった⁽⁸²⁾。しかし、それでもチト

(76) 1950年2月の記録 (Там же. Д. 141. Л. 34-40) 1953年1月の記録 (Там же. Д. 278. Л. 49-57)。

(77) 1950年2月の記録 (Там же. Д. 173. Л. 2-9) 1953年1月の記録 (Там же. Д. 278. Л. 138-144)。

(78) 1950年の記録 (Там же. Д. 131. Л. 16-22)。

(79) 1951年5月の記録 (Там же. Д. 204. Л. 174-179)。

(80) バラノフ・レオニード・セミョーノヴィッチ (Баранов Л.С.) : 1909年生まれ。1944年から1949年まで全連邦共産党 (ボリシェビキ) 対外 (関係) 部部長代理を務めた。

(81) Там же. Д. 115. Л. 14-16。

(82) 厳しい審査が無くなった影響からか、1950年6月の記録ではハンガリーのユーゴスラヴィア政治亡命者の数が一時期3倍以上の221名に増えている (Там же. Д. 142. Л. 137)。しかしそれでも1950年3月の時点のハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループからの報告書には、まだ60名から70名のユーゴスラヴィア人たちが審査のため牢獄に入れているとあり (РГАСПИ. Ф. 82. Оп. 2. Д. 1379. Л. 26)、このことはハンガリーの審査の厳しさを物語っている。

ーのスパイや「有害な人物」だと認められた場合、政治亡命者という地位を剥奪された。1948年から1949年までに政治亡命者と認められハンガリーに入ってきたユーゴスラヴィア人は148名であったが、73名が何らかの理由で政治亡命者という立場ではいられなくなったとのことであった。⁽⁸³⁾

同様の審査はもちろん他の国でも行われており、例えば、ルーマニアに入ってきたユーゴスラヴィア政治亡命者の総数は、1948年から1952年までに234名にのぼった。しかしその後、その中から逮捕される者、ユーゴスラヴィアに帰還した者、経済移民のカテゴリーに移行された者も出て、最終的にその数は約半数となった。⁽⁸⁴⁾ルーマニアに亡命したユーゴスラヴィア人の出自を見ると、労働者家庭と農民家庭出身者が半数以上を占めている。亡命者の多くは元ユーゴスラヴィア共産党員もしくはそれに関わる機関に属していたが、1953年1月までに42名がルーマニア共産党に入党が許可され、109名がルーマニア国籍を取得している。⁽⁸⁵⁾

1951年末までにブルガリア国境を越えたユーゴスラヴィア人は約890名にのぼった。しかし、その多くは政治的理由からの亡命ではないとされ、最終的に政治亡命者として認められた数は277人であった。その内訳をみると、多いのは農民家庭出身者で、特に貧農家庭出身者が圧倒的多数を占めていた。1953年1月までに、110名のユーゴスラヴィア政治亡命者がブルガリア共産党への入党を許可され、また、40名がブルガリア国籍を取得した。⁽⁸⁶⁾

1953年のハンガリーにおけるユーゴスラヴィア政治亡命者75名の出自を見ても、労働者家庭出身者が19名、農民家庭出身者が42名と大多数を占める。1953年1月までの16名がハンガリー勤労者党の党員となり、68名がハンガリー国籍を保持している。⁽⁸⁷⁾ハンガリーの政治亡命者たちに関しては、大半が農民

(83) РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 278. Л. 49-57.

(84) Там же. Д. 301. Л. 4.

(85) Там же. Л. 1-6.

(86) РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 278. Л. 89.

(87) Там же. Л. 49-50.

家庭出身であったため、全体的に「政治教育水準が低い」と評され、そのためかほぼ全員がハンガリーで大学・専門学校・党の特別学校などで教育を受けて⁽⁸⁸⁾いる。

チェコスロヴァキアのユーゴスラヴィア政治亡命者139名の出自を見ても、労働者家庭出身者が31名、農民家庭出身者が58名（計89名。ルーマニア91名、ブルガリア267名、ハンガリー61名）と大多数を占めるが、一方で知識⁽⁸⁹⁾人家庭出身者が19名、ブルジョワ⁽⁹⁰⁾家庭出身者が31名（計50名）と、他の国のユーゴスラヴィア政治亡命者と比較するとその割合は高い（ルーマニア23名、ブルガリア10名、ハンガリー12名）。1953年の時点でチェコスロヴァキア共産党の党員になった政治亡命者はおらず、24名がチェコスロヴァキア青年同盟に入るとどまった。また、チェコスロヴァキア政府は当時ユーゴスラヴィア政治亡命者にチェコスロヴァキア国籍を与えておらず、チェコスロヴァキア国民と結婚した3人の女性政治亡命者がチェコスロヴァキア国籍を取得⁽⁹¹⁾したのみであった。

残念ながら、1953年のアルバニアのユーゴスラヴィア政治亡命者たちの詳しい状況が書かれた報告書を見つけることはできなかったが、アルバニアにも多くのユーゴスラヴィア政治亡命者はいた。1950年の記録によると、アルバニアのユーゴスラヴィア政治亡命者の数は255名であり、その内訳は、コソヴォとマケドニアからのアルバニア系⁽⁹²⁾の人が大半であった。彼らもコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者組織をつくり、新聞『自由のために』紙を発行している。

ユーゴスラヴィアとは国境を接していないポーランドにも少数ではあるがユーゴスラヴィア政治亡命者たちは存在した。23名の内22名はワルシャワに住

(88) Там же. Л. 51-53.

(89) 役人家庭も含む。

(90) 役人家庭のみでブルジョワ家庭もしくは知識人家庭出身者はいない。

(91) Там же. Л. 138-144.

(92) Там же. Д. 131. Л. 16.

み、1人はカトヴィツェに住んだ。彼らの内18名がポーランドのラジオ局で働いていた。1950年12月に会議が開かれ、その会議の場でコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループとしての組織が出来上がった。彼らは、月刊誌『勝利のために（Za pobedu）』を発行し、セルビア語とマケドニア語⁽⁹³⁾のラジオ放送をするなど、積極的に反チトー・プロパガンダを展開していた。

「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア政治亡命者たちの特徴として挙げられることは、全体的に比較的年齢が低く、20代後半から40代前半にかけての年代が大半を占めていた。例えば、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの中心的役割を果たしていたポピヴォダは1916年生まれであり、亡命した1948年時点では32歳であった。ガルボヴィッチもルーキンも1949年には共に42歳であった。ハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの指導者的存在であったヴェレミルは45歳であったが、リュブレフ⁽⁹⁴⁾は40歳、トレボヴィッチは32歳であった。チェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの指導者的存在であったイヴァノヴィッチは39歳、ミリュニッチとライコヴィッチは37歳であった。多くの若いユーゴスラヴィア人がこの1949年から1953年の間にユーゴスラヴィアを逃れ、ソ連・「人民民主主義」諸国へ亡命したが、その中でも特に強くチトーの政治に反対し、「理想に燃えた」人々が反チトー・キャンペーンに従事していったのである。

(93) Там же. Д. 204. Л. 174-179.

(94) ジャルコ・リュボヴレフ（Žarko Ljubolev）：1909年生まれ。1934年よりユーゴスラヴィア共産党員。ザグレブの工場で工場長として働いていた（Там же. Д. 115. Л. 40）。ソ連の文書にはLjubolev又は、Ljublevと綴られている箇所が多く見受けられるが、正しくはLjubolevである。

9. コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者中央機関の設立—第一回・第二回「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者会議

コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者中央機関の設立に向けて、1950年7月27日から28日にかけてルーマニアで「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者代表による会議が開かれた。⁽⁹⁵⁾この会議の議題は、チトー・ランコヴィッチ一味からユーゴスラヴィアを「解放」するため、どのようにプロパガンダを展開していくのか、また、そのプロパガンダを展開するためにはどのように組織を整備すればいいのかという内容であった。この会議の中で、改めてソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループ同士の関係強化の重要性が再認識された形となった。また、当時すでに国家として反チトー・キャンペーンを展開していた「人民民主主義」諸国の政府や共産主義政党との良好関係を構築することが重要とされた。そして、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の正式な中央機関の設立が満場一致で可決され、その機関はモスクワの『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の下に設置されること⁽⁹⁶⁾が決定した。⁽⁹⁷⁾

このような過程を経て、モスクワの『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙編集部の中に、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの活動を統括する部署が設置された。その部署の役割は、

- 1) ソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループを統括し、彼らの仕事を調整すること。
- 2) ソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治

(95) コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは自らをこう称していた。

(96) この会議は、1950年4月22日付のコミンフォルム事務局の決定により開かれた。

(97) Magyar Nemzeti Levéltár Országos Levéltár (MNL OL). 276 J/ 65/ 97 ó.e. 30 o. また、РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 176. Л. 7-11.

それ以外に、このソ連・「人民民主主義」諸国の「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者代表会議の議事録はロシア国立社会政治史公文書館に残っている (Там же. Л. 39-187)。

亡命者の新聞およびその他の刊行物を発行する際に補佐（編集など）を
すること。

- 3) ソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治
亡命者たちについて把握し、監査を行うこと。
- 4) コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちに思想（イデオロギ
ー）教育をすること。

であった。⁽⁹⁸⁾ またコミンフォルム事務局は、この部署をソ連・「人民民主主義」
諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループを統括する正式
な独立機関の前身として機能している部署であると認識した。⁽⁹⁹⁾

1950年12月6日、『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部員
たちは、全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会に独立した「革命的」ユー
ゴスラヴィア政治亡命者中央機関の設立、つまり、『社会主義的ユーゴスラヴ
ィアのために』紙の編集部の中に存在する一部署としてではなく、独立して機
能する機関としての中央機関設立を再度要請した。⁽¹⁰⁰⁾ それを受けて、同年12月
19日の全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会の決議により、1951年1月
17日から18日に再度ソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴ
スラヴィア政治亡命者グループ代表者による会議がブカレストで開かれること
が決まった。⁽¹⁰¹⁾

1951年1月にブカレストで開かれた第二回「革命的」ユーゴスラヴィア政
治亡命者会議の焦点は、独立した機関としての「革命的」ユーゴスラヴィア政
治亡命者中央機関の設立に当てられた。会議は全部で3つのセッションに別れ

(98) РГАСПИ. Ф. 82. Оп. 2. Д. 1379. Л. 46.

(99) Там же. Л. 44-45, 52-56.

(100) Там же. Л. 74-79.

(101) 史料を基に分析すると、「人民民主主義」各国の指導者たち全てに全連邦共産党（ポリシェビキ）中央委員会書記スースロフの名で、身元が分かっていて信頼がおけるユーゴスラヴィア政治亡命者の中から、これから設立される政治亡命者の中央機関メンバー候補者を挙げてほしいとの通達を送られたようである。ハンガリー勤労者党第一書記であったラーコシにも1950年12月16日付でこの内容の文書が送られている（MNL OL. 276 J/ 65/ 97 ö.e. 30 o.）。

ており、第一セッションではポピヴォダがこの新たに設立される中央機関の役割を再度明確にした⁽¹⁰²⁾。またこの時、中央機関のメンバーを決定する選挙を行うことを提案した⁽¹⁰³⁾。そしてこの会議の第三セッション（最終セッション）において、ソ連・「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア政治亡命者の代表たちからユーゴスラヴィア政治亡命者の中央機関「コーディネーション・センター」（以下、この機関をコーディネーション・センターと記す）の代表が選ばれた。コーディネーション・センターの指導者にはポピヴォダ、指導者代理兼『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集長にはガルボヴィッチが就いたのを始め、ペトラノヴィッチ・ノヴァコフ⁽¹⁰⁴⁾・ルプニク⁽¹⁰⁵⁾・アンドリッチ⁽¹⁰⁶⁾・リュボヴレフ⁽¹⁰⁷⁾がメンバーとなった。

ここで指摘しておきたいことは、この頃にはすでにコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちはコミンフォルムを始めとする共産主義の国際機関においてチトーのユーゴスラヴィア共産党に代わりユーゴスラヴィアの代表になるという野望があったようである⁽¹⁰⁸⁾。1949年11月の第三回コミンフォルム会

(102) РГАСПИ Ф. 575. Оп. 1. Д. 211. Л. 19-20 (セルビア語), Л. 71 (セルビア語からのロシア語訳)

(103) Там же. Л. 17-20 (セルビア語), Л. 68-71 (セルビア語からのロシア語訳)

(104) ドゥシコ・ノヴァコフ (Duško Novakov) : 1918年生まれ。1940年よりユーゴスラヴィア共産党員。1949年にルーマニアに亡命した。ルーマニアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の新聞の編集部で働いた。

(105) アントン・ルプニク (Anton Rupnik) : 1919年生まれ。在バリ・ユーゴスラヴィア大使館員であった。1948年チェコスロヴァキアに亡命する。チェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者。

(106) ラトミル・アンドリッチ (Ratomir Andrić) : ブルガリアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者。

(107) Там же. Л. 6 (ロシア語), Л. 49 (セルビア語) また, РГАСПИ. Ф. 82. Оп. 2. Д. 1379. Л. 92.

(108) このことを裏付ける証拠としては、ルーマニアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者代表であったオポエヴリッチの1951年1月の会議の席での発言が挙げられる。彼は会議の第二セッションにおいて、ユーゴスラヴィアに新しい共産党を設立するために「強く信頼できる(ユーゴスラヴィアの)闘士は、マルクス・レーニン主義の旗およびスターリンの天才的指導の下、全ての共産党および労働者党と協力し」闘うと発言している(РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 211. Л. 21-22)。また、その一年前の1950年1月30日に行われた新聞『インターナショナルの

議の決定⁽¹⁰⁹⁾を受けて、ユーゴスラヴィアは共産圏から排除されていた。ユーゴスラヴィアが再び「古巣」に戻る可能性が出てきたのは、スターリンの死後、フルシチョフがユーゴスラヴィアに対する政治路線を変更していった1954年以降であり、それまでの間は、ユーゴスラヴィアは西側諸国との関係を強化していた。また、1949年にコミンフォルムからの圧力が厳しくなるにしたがって、特にアメリカ・イギリス・フランスがユーゴスラヴィアに対する援助をする構えを見せた。そして、1950年代初めにはユーゴスラヴィアは西側諸国と経済関係を持ち始めたのである。このような背景もあり、コミンフォルム派ユーゴスラビア政治亡命者たちがモスクワの支持により新しいユーゴスラヴィア共産党を組織し、自分たちがその指導的立場になると考えるのは自然なことであったと言える。よって、このコーディネーション・センター⁽¹¹⁰⁾設立は、その第一歩と捉えられ、彼らの活動に拍車をかけるものであった。

10. コーディネーション・センターの活動

このような形で設立されたユーゴスラヴィア政治亡命者のコーディネーション・センターであったが、その第一回会議は1951年2月15日から17日にかけて行われた。会議の席では、当面の反チトー・プロパガンダ活動を円滑に進めていくための話し合いがなされた。⁽¹¹¹⁾その席で話し合われた内容をさらに発展させ、4月にはコーディネーション・センターの名でスターリンに陳情書が提

旗の下に』の編集部会議の場で、ポピヴォダが「今春には中央指導部が設立され、我々はコミンフォルムに組み込まれる」と発言している（Там же. Д. 160. Л. 37-38）。

(109) 1949年11月にブダペストで開かれた第三回コミンフォルム大会において、「ユーゴスラヴィア共産党——殺人者とスパイに牛耳られた党」という決議が下された。大会議事録は以下を参照。Адибеков Г.М. Ди Бьяджо А. Гибанский Л.Я. и др. Совещания Коминформа, 1947, 1948, 1949. Документы и материалы. М., 1998. С. 509-745.

(110) 詳しくは、РГАСПИ. Ф. 82. Оп. 2. Д. 1379. Л. 101-104 参照。

(111) Там же. Л. 101-104 参照。また、コーディネーションセンターの活動計画（Там же. Л.93-94.）参照。

出されている。コーディネーション・センターは其中で、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の政治的（イデオロギー的）教育のために、2年制の党の学校を設置することを求めている⁽¹¹²⁾。

1951年を通して、ユーゴスラヴィアからの政治亡命者の数は増えていった。そして彼らは職を得、党主催のイデオロギー教育プログラムに参加するだけでなく、中には亡命した国（ここではソ連・「人民民主主義」諸国）の国籍を取得する者もでてきた。ソ連・チェコスロヴァキア・ルーマニアで学ぶユーゴスラヴィアの学生たちは政治教育に加え、特別なイデオロギー教育も受けた⁽¹¹³⁾。

コーディネーション・センターは、ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの政治・イデオロギー教育をする他に、様々な世界的組織にも活動の場を広げていった。コーディネーション・センターが設立される以前、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは世界平和評議会に代表を置くのみであったが、設立後は世界労働組合連合⁽¹¹⁵⁾・国際民主女性連盟⁽¹¹⁶⁾・国際反ファシズムレジスタンス連盟などのモスクワ主導の国際機関の執行部に代表を置くようになっていった⁽¹¹⁷⁾。この様に、コーディネーション・センターは、第三回「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者の会議が開かれる1952年1月17日までに国際機関に自分たちの代表を置くよう積極的に働きかけ、自らの存在をアピールしていったのである⁽¹¹⁸⁾。

(112) Там же. Л. 98-99.

(113) 彼らの教育プログラム РГАСПИ Ф. 575. Оп. 1. Д. 250. Л. 160-187 (ロシア語), Л. 5-26 (セルビア語)

(114) Всемирный совет мира (World Peace Council) : 1950年にポーランドのワルシャワにおいて、第二回平和擁護世界大会の場で設立された国際組織。

(115) Всемирная федерация профсоюзов (World Federation of Trade Unions) : 1945年10月にパリで発足した国際労働者団体。

(116) Международная демократическая федерация женщин (Women's International Democratic Federation) : 1945年にフランスのパリで発足した国際婦人団体。

(117) Международная организация участников сопротивления и борцов против фашизма (International Federation of Resistance Fighters-Association of Anti-Fascists) : 1951年にオーストリアのウィーンで発足した国際団体。

(118) 第三回「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者の会議におけるポピヴォダの演説

コーディネーション・センターは、全連邦共産党ポリシェビキを始めとする「人民民主主義」諸国の共産主義政党との繋がりを強めていくことにも力を注いだ。1951年にはハンガリー勤労者党の党大会にコーディネーション・センターの代表団が招待されたのを始め、アルバニア労働党は党設立10周年記念式典にコーディネーション・センターの代表団を招待した。上記二つの招待時、コーディネーション・センターは「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者の名で挨拶の言葉を述べている。後の1952年には、ポピヴォダはソ連共産党（КПСС）の第十九回大会において発表している。

上記で少し触れたが、1951年前半までにチェコスロヴァキア・ソ連・ルーマニア・ブルガリア・アルバニアでコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の新聞がセルビア語・マケドニア語で刊行されていた。⁽¹¹⁹⁾この時点ではスロヴェニア語の新聞は刊行されておらず、スロヴェニア語話者への反チトー・プロパガンダの必要性が注目された。この件については1949年から1950年の時点でコミンフォルムの機関紙『恒久平和のために、人民民主主義のために！（За прочный мир, за народную демократию）』の編集長であったユージンが、⁽¹²⁰⁾ハンガリー勤労者党第一書記であったラーコシとスロヴェニア語の新聞のブダペストでの発行について数回協議している。しかし、ハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者に対し特にイデオロギー的に懐疑的な目を

РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 250. Л. 160-187（ロシア語）、Л. 5-26（セルビア語）

(119) チェコスロヴァキアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの機関紙『新たな闘い』は1948年9月1日に刊行されている。ソ連のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの機関紙『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』は1949年5月1日に、ルーマニアの『インターナショナルの旗の下に』とブルガリアの『前進』は同年5月15日にアルバニアの『自由のために』は1950年1月25日にそれぞれ創刊号が発行されている。

(120) ユージン（Юдин Павел Федорович）：1899年生まれ。1918年より共産黨員。1948年より『恒久平和のために、人民民主主義のために！』紙の編集長（1953年まで）。1952年から1961年までソ連共産党中央委員。

(121) ラーコシ・マーチャーシュ（Rákos Mátyás）：1892年生まれ。ハンガリーの指導者。1945年から1948年までハンガリー共産党書記長。1948年から1956年までハンガリー勤労者党の第一書記。

向けていたという側面を持つラーコシは、この件に関して消極的であった。さらに、ラーコシ自身は各国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちが各々の新聞を発行することは新聞の内容の質を保つことが困難になると考えていたため、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の新聞の種類を減らすことを進言したほどであった。⁽¹²²⁾

しかし、それでもスロヴェニア語で反チトー・プロパガンダを展開する必要性は消えたわけではなく、これについてはコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの間で幾度となく議論となった。1950年7月に開かれた第一回コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者代表会議の際もこのテーマは議題にあがっていた。⁽¹²³⁾ この問題を解決したのは、コーディネーション・センターであったのである。1951年前半にはユーゴスラヴィア政治亡命者の数も増え、この頃になるとラーコシもハンガリーのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループへの信用をある程度強めたのではないかと推測される。⁽¹²⁴⁾ ラーコシは最終的に、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者のスロヴェニア語の新聞をブダペストで発行することを許可した形となった。⁽¹²⁵⁾

まず、コーディネーション・センターはルーマニアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者であったノヴァコフをブダペストに派遣し、『人民の勝利のために』紙編集部員の人選や創刊号（及び最初の数号）の指導にあたるよう指示した。ノヴァコフはルーマニアのコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの機関紙『インターナショナルの旗の下に』紙の編集部での経験を基に指導を行った。⁽¹²⁶⁾ そして、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治

(122) MNL OL. 276 J/ 65/ 97 ö.e. 13-15 o.

(123) РГАСПИ. Ф. 575. Он. 1. Д. 176. Л. 9.

(124) MNL OL. 276 J/ 65/ 104 ö.e. 64-65 o.

(125) コーディネーション・センターの活動の記録によると、『人民の勝利のために』紙の発行問題はハンガリー勤労者党中央委員会及びラーコシの支援により解決した」とある（РГАСПИ. Ф. 82. Он. 2. Д. 1379. Л. 102）。

(126) コーディネーション・センターの名でノヴァコフが派遣されるという旨を伝えたボビヴォダの文書 MNL OL. 276 J/ 65/ 104 ö.e. 64-65 o.

亡命者のスロヴェニア語の新聞『人民の勝利のために』紙は1951年5月1日に刊行された。

12. 第三回「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者代表会議——それ以降の活動の傾向

活動勢力を広げていったコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちであったが、彼らの最終目的はチトー政府を打倒し、自分たちが新たなユーゴスラヴィア共産党を組織し、政権の座につくことであった。彼らはその目的に向け共産主義の国際関係の中で一步一步自分たちの足場を固めていった。そんな中、1952年1月17日から20日、コーディネーション・センターのイニシアティブで第三回「革命的」ユーゴスラヴィア政治亡命者代表会議が開かれた。

会議は6つのセッションに分かれており、その主な内容は、1951年の活動の総括と次年度の課題、そして、新たなユーゴスラヴィア共産党設立への展望であった。第一セッションのポピヴォダの演説では、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの二つの目的、「正しいマルクス・レーニン主義をとる新たなユーゴスラヴィア共産党の設立」と「チトーの『ファシズム的政権』を打倒すること」が強調された。またポピヴォダはチトー政権を「ファシスト勢力」、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちを「国粋主義の革命的解放軍」と呼び、ユーゴスラヴィアの「解放」を呼び掛けた。その「武器」としては、印刷物（新聞・雑誌・ビラ・ブックレットなど）、ラジオ放送、国際的活動家（演説家）、各国の共産主義政党からの支援などを挙げた⁽¹²⁷⁾。会議では新たなユーゴスラヴィア共産党設立に向けさらにプロパガンダ活動を強化することが決定し、それに伴い、コーディネーション・センターもそれに向けてさらに具体的な問題を解決していくことが必要とされた⁽¹²⁸⁾。

(127) 詳しくは、会議におけるポピヴォダの演説（РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 250. Л. 24-28）参照。

(128) РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 250. Л. 188-192.

この会議の決定を受け、コーディネーション・センターはすべての新聞に、ユーゴスラヴィア「解放」に向けて共同戦線をはることに、マルクス・レーニン主義をとる新たなユーゴスラヴィア共産党設立のための理論的・イデオロギー的・組織的思考を発展させることを促す記事を載せることを指示した。⁽¹²⁹⁾

ロシア国立社会政治史公文書館の史料から、1952年を通してソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループを基にして新たな党のモデルとなる組織（連盟）設立が進んでいったことがわかる。その組織は、「チトー・ランコヴィッチ一味のファシスト的抑圧と帝国主義に囚われているユーゴスラヴィア民族解放のための愛国主義者連盟（本稿では以下、「ユーゴスラヴィア愛国主義者連盟」と記す）⁽¹³⁰⁾」と名付けられた。そして、コーディネーション・センターの指導者であったポピヴォダがこの連盟の会長⁽¹³¹⁾となった。また、この連盟の機関紙としての役割は『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙が、⁽¹³²⁾ ラジオ放送は「自由ユーゴスラヴィア」⁽¹³³⁾が担った。

(129) Там же. Д. 253. Л. 227-232.

(130) この名称は、1952年10月に開催された全連邦共産党（ボリシェビキ）の第19回大会におけるポピヴォダの挨拶（同年10月14日の『ブラウダ』紙に掲載された）時に初めて使われた。この名称はその時から突如使われ始めたが、この改名は正式な決定を経てされたものではなく、ソ連側はこの改名について報告を受けていなかったようである（Российский государственный архив новейшей истории (РГАНИ). Ф. 5. Оп. 28. Д. 88. Л. 237).

(131) РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 279. Л. 211.

(132) 1952年になると、各国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループが出していた新聞の内容の質が問題となったが、それでも、『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙はセルビア語のみでの発行であったため、マケドニア語の『前進』紙とスロヴェニア語の『人民の勝利のために』紙の重要性は認められていた（Там же. Д. 253. Л. 232）。

(133) Свободная Югославия：ラジオ局「自由ユーゴスラヴィア」はブカレストにあったコミンフォルムの特別ラジオ基地局を通じ、ユーゴスラヴィアに向けて放送していた。1949年6月に放送を開始し、1954年9月30日にその放送を終了した。セルビア語・スロヴェニア語・マケドニア語の番組が放送されていた。

13. 1953年スターリンの死以降のコミンフォルム派ユー ゴスラヴィア政治亡命者の活動

1953年3月5日にスターリンが死去すると、クレムリンは外交路線の見直しを始めていった。そして、その中でユーゴスラヴィアとの外交関係回復が必要だと考えられ始めた。クレムリンの指導者たちは、それまでユーゴスラヴィアに対立的政治路線をとっていた事実を認め、スターリンの死からわずか数週間後にはユーゴスラヴィアとの外交関係回復に向けた道を模索し始めた。とは言っても、すぐに180度政治路線を変更することは不可能であり、1953年春の時点ではまだ反チトー・プロパガンダの嵐は吹き荒れていた。そのような背景の中、1953年4月23日から25日にかけて、「ユーゴスラヴィア愛国主義者連盟」の第一回会議が開かれた。⁽¹³⁴⁾

会議では、1952年から1953年4月までの活動の総括と今後の課題に焦点が当てられた。この時に強調されたことは、「ユーゴスラヴィア愛国主義者連盟」の設立がユーゴスラヴィア「解放」運動を展開していくための重要な一歩であり、組織の目的は「チトー・ランコヴィッチ一味のファシスト的抑圧と帝国主義」に対する闘いとソ連・「人民民主主義」諸国との友好関係の再建、そして平和と民族友好のための闘争を展開していくということであった。⁽¹³⁵⁾

この会議の第一セッションでは執行委員会の人選が行われ、執行委員会のメンバーには、各国の共産主義政党から推薦を受けた各国のユーゴスラヴィア政治亡命者グループからの代表者たちが選ばれた。⁽¹³⁶⁾

ロシア国立社会政治史公文書館の史料を基に分析すると、新たなユーゴスラヴィア共産党設立の計画自体が多少なりとも具体化され始めたのは1952年で

(134) この会議の議事録（РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 279）。この会議は「第一回」と銘打たれているが、この会議をコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の政治的機関設立の過程における新たな一歩と捉えた場合、彼らの会議はこれ以前に三回開催されており、したがってこの会議はコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の第四回目の会議となる。

(135) РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 279. Л. 10.

(136) Там же. Л. 211.

あった。しかし、現時点で公開されている公文書館史料からはその計画の全貌（いつから誰の発案で始まり、どのような経緯を経てこの計画が実行に移ったのか。また、どの程度綿密に計画されていたものだったのか）を明らかにするのは不可能である。もし、1950年の『インターナショナルの旗の下に』紙編集部会議の場でのポビヴォダの発言を信じるならば、この時点でコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの組織がコミンフォルム内に作られるという計画があったということである。⁽¹³⁷⁾しかしこの証言を裏付ける他の史料は今のところ見つかっていない。これまで分析を行った1950年から1953年の史料には、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの組織がユーゴスラヴィア共産党に代わりコミンフォルムに組み込まれたという事実は見当たらない。その理由としては、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たち自身が（それがソ連・「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの指導者的役割を果たしている人物であったとしても）、政治的・イデオロギー的にモスクワの絶対的信頼を勝ち取ることができなかったからではないかと推測できる。彼らを「共産党」の名を負った組織の指導者として（たとえそれが「亡命政党」という形であったとしても）育て上げるには時間を要し、また、それはソ連・ユーゴスラヴィア外交関係修復が始まった時点で必要がなくなってしまったのである。

ソ連側からのユーゴスラヴィアに対する外交関係修復への第一歩は、1953年6月6日、ソ連外相のモロトフ（Молотов В.М.）がユーゴスラヴィアの代理大使ジュリッチ（D. Đurić）を招き、ソ連からユーゴスラヴィア指導者にヴァリコフ（Вальков В.）をソ連大使として受け入れてもらえるよう要請したことであった。この時モロトフは両国関係が正常化し、お互いの大使を置くこと

二七

(137) ポビヴォダはこの「新たなユーゴスラヴィア共産党設立」というテーマでしばしば記事を発表している。彼の見解によると、「ユーゴスラヴィアの革命的勢力はすでに新たなマルクス・レーニン主義の共産党設立の過程にあり、その設立の必要性は1949年夏の時点で『恒久平和のために、人民民主主義のために！』紙に述べられており、1949年11月の第三回コミンフォルム大会の決議でも強調されている」とのことである（РГАСПИ. Ф. 495. Оп. 277. Д. 120 (I). Л. 81-89）。

を望んだ⁽¹³⁸⁾。その後同年7月30日にはヴァリコフがユーゴスラヴィアの指導者チトーとブリオニ島で会談し、同年9月22日にヴィディッチ（D. Vidić）がユーゴスラヴィア大使としてモスクワに派遣された⁽¹³⁹⁾。これ以前にもチトーは1953年6月14日にはソ連との外交関係修復に乗り出す準備があると発言している。このことがこれ以降のユーゴスラヴィア対ソ連外交の指針となった。しかしその一方で、チトーは「大使をお互いの国に派遣することだけでは外交関係の修復がなされたとは言えない。ソ連首脳たちがこれまで我々（ユーゴスラヴィア）に対してしてきたこと全てを修正することは困難を極めており、更に、それが可能であるにも関わらず、彼らが今日まで修正しなってきた事柄も多数ある。過去四年に渡り、彼らが我々に対ししてきたことを考えると、我々はこれから先、彼らを100%信用することは難しい」とも発言している⁽¹⁴⁰⁾。両国はお互い外交関係修復は必要であると考えてはいたが、それが非常に困難であることもお互いにわかっていたのである。

他の「人民民主主義」諸国との外交関係修復については、1954年8月11日にチトーからソ連共産党中央委員会に送った文書の中で言及されている。モスクワも、「人民民主主義」諸国全体がユーゴスラヴィアと和解しなければならないことは理解していた。この直後の1954年9月23日、フルシチョフは「人民民主主義」諸国の指導者たちに、ソ連国内における「ユーゴスラヴィア愛国主義者連盟」の全活動と新聞の発行を停止したとの通知を出した。これは、モ

(138) *Никифоров К.В. (отв. ред.) Югославия в XX веке: Очерки политической истории. М., 2011. С. 661-662.*

(139) Там же. С. 663.

(140) Там же. С. 662.

また、このソ連・ユーゴスラヴィア関係回復のプロセスは、ロシアの研究者エデムスキーの著書に詳しく書かれている。*Едемский А.Б. От конфликта к нормализации. Советско-югославские отношения в 1953-1956 годах. М., 2008.*

(141) 1954年9月23日、ハンガリー労働者党の指導者ラーコシはフルシチョフからソ連において「ユーゴスラヴィア愛国者同盟」の活動を停止する旨が書かれた文書を受け取った（MNL OL. 276 J/ 65/ 177 6e. 3-4 o.）。1953年10月14日のハンガリー労働者党政治局の会議の場で、ハンガリー国内での反ユーゴスラヴィア（反チトー）のポスター・本・カリカチュアなどの廃止、

スクワからのチトーに対する歩み寄りの姿勢を見せた結果であった。

「ユーゴスラヴィア愛国主義者連盟」、つまり、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの政治活動は1954年9月で打ち切りとなった。1954年9月23日付のソ連共産党中央委員会の決定により、ラジオ局「自由ユーゴスラヴィア」は同年9月3日⁽¹⁴²⁾で放送を終了した。ソ連・「人民民主主義」諸国で発行していたコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者グループの新聞は、すべてが9月16日から18日付のものを最後に発行が停止された。このことは、ソ連・「人民民主主義」諸国とユーゴスラヴィアの国際関係は新たな段階に入り、そこにはコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの居場所はなくなったということを意味していたのである。

14. 結 論

1948年6月のコミンフォルム第二回大会におけるユーゴスラヴィア追放決定以降のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは、ソ連の主導により「人民民主主義」諸国で展開された反チトー・キャンペーンの一つの宣伝機関として活躍した。彼らの活動は全連邦共産党ボリシェビキ中央委員会によって計画・管理されたものであった。また、ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは、チトーのユーゴスラヴィア共産党に代わる新たなユーゴスラヴィア共産党をつくり、ユーゴスラヴィアの政権を取るという野望の下、反チトー・キャンペーンの中で積極的に活動していった。

しかし、彼らは全連邦共産党（ボリシェビキ）中央委員会の100%の信頼を勝ち取ることはできなかった。彼らを「ユーゴスラヴィア共産党」の名を負った組織の指導者の座につけることは当時はまだ時期尚早であり、また、それは

二二五

『人民の勝利のために』紙の廃刊、ハンガリーの「ユーゴスラヴィア愛国者同盟」の活動停止が決定された（MNL OL. 276 J/ 65/ 177 öe. 20-21 o.）。

(142) 1954年のコミンフォルム事務局の決定を参照（РГАСПИ. Ф. 575. Оп. 1. Д. 283. Л. 87）。

ゴスラヴィア共産党自体を設立する必要がなくなったのである。

最後に1954年以降のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちについて少し述べる。1954年10月までには、ソ連・「人民民主主義」諸国における反チトー・キャンペーンは正式に停止された⁽¹⁴³⁾。その後、ユーゴスラヴィアとの外交関係を回復したいソ連・「人民民主主義」諸国にとって、コミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちは邪魔な存在となった、「人民民主主義」諸国のユーゴスラヴィア政治亡命者たちの中にはユーゴスラヴィアに送還された人々もいたようである。

ソ連に亡命したコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの多くはソ連に残った。そして特にその指導的立場にあった人たちは、学問の世界に入っていった。ロシア国立社会政治史公文書館のコミンフォルムのフォンドには、多くの主要なユーゴスラヴィア政治亡命者の個人情報が残っている。

亡命してから1954年10月までの間、常にソ連、「人民民主主義」諸国のコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者の中心にいたポピヴォダは、1954年からソ連共産党中央委員会付属高等学院で学び1956年に修了している。その後はソ連閣僚会議付け民間航空機局（Главное Управление Гражданского воздушного флота）⁽¹⁴⁴⁾で働いた。ガルボヴィッチは1954年からソ連科学アカデミー哲学研究所に特別研究生として在籍し1956年に修了、その後は研究者としてそのまま哲学研究所に残った⁽¹⁴⁵⁾。『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集長代理であったルーキンは、1954年ソ連科学アカデミー法学研究所

(143) もちろんすべての国が一斉にメディアによる反チトー・キャンペーンを停止することはありえなかった。例えば、「人民民主主義」諸国の指導者の中でも特に反チトー・キャンペーンの先鋒を切っていたハンガリーのラーコシにとっては、反チトー・キャンペーンの停止、ユーゴスラヴィアとの外交関係回復はハンガリーにおける自らの足場を揺るがせる結果を招きかねないため、それまでよりは緩やかではあるが、事あるごとにユーゴスラヴィアの政治を批判する記事をメディアに載せるなど、細々とはあるが自らが退陣する1956年夏まで反チトー・キャンペーン的政策を続けていた。

(144) РГАСПИ. Ф. 495. Оп. 277. Д. 120 (I). Л. 20.

(145) Там же. Д. 119. Л. 15-16.

の特別研究生となり、1957年に修了すると、同研究所の研究員となった。⁽¹⁴⁶⁾ 学生の立場でユーゴスラヴィア政治亡命者となったエлезは、⁽¹⁴⁷⁾ 1951年にモスクワ大学ジャーナリズム学部を卒業すると、1951年1月から『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部で働き始め、1954年11月にはガルボヴィッチと共に哲学研究所の特別研究生となった。⁽¹⁴⁸⁾ 1950年9月より『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部で主にロシア語—セルビア語の翻訳を担っていたシャバンは、⁽¹⁴⁹⁾ 1954年にソ連科学アカデミー法学研究所の特別研究生になり、1957年に課程を修了すると、同研究所の研究員となった。⁽¹⁵⁰⁾ 1949年4月から『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙の編集部の秘書長として、1951年からは編集長代理として働いていたエシッチは、『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』紙が廃刊になると、1954年にソ連科学アカデミースラヴ学研究所の研究員となった。⁽¹⁵¹⁾

チトーのユーゴスラヴィア共産党に代わる新たなユーゴスラヴィア共産党をつくり、ユーゴスラヴィアにおいて政権を取るというコミンフォルム派ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの野望は、ソ連の指導者スターリンの死後、新たな国際関係を構築しようというモスクワの動きの前に敗れた形となった。ユーゴスラヴィア政治亡命者たちの指導的立場にあった人の多くはその後ソ連で研究職に就き、それまでの知識を研究の場で生かす形となっていったのである。

(146) Там же. Д. 121. Л. 1, 6.

(147) ヨヴォ・エлез (Jovo Elez) : 1925年生まれ。1943年よりユーゴスラヴィア共産党員。1947年、学業のためソ連に渡る。新聞『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』編集部で働いた。

(148) Там же. Д. 2180. Л. 5, 9.

二
三

(149) ヨヴァン・シャバン (Jovan Šaban) : 1914年生まれ。1946年よりユーゴスラヴィア共産党員。1948年にソ連に亡命する。1950年から1954年まで新聞『社会主義的ユーゴスラヴィアのために』の編集部で働く。

(150) Там же. Д. 1727. Л. 1, 4.

(151) Там же. Д. 122. Л. 22-23.